

平成 24 年度 総合問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

1 (100 点)

【解答例】

2011年現在、アフリカの角地域（ソマリア，エチオピア，ケニア）では，414万人もの子どもが緊急に支援を必要とする深刻な飢餓状態にある。何万人もの人々が死亡し，30万人以上の子どもが重度の栄養不良で切迫した命の危険にさらされている。これらの子どもは人間の基本的ニーズ，基本的権利も全て奪われている。

栄養不足で，生活活動に必要なエネルギーを得られなければ，身体的・精神的発達が遅れ，免疫力が低下し，病気や感染症にかかりやすくなる。毎年300万人以上の赤ちゃんが体重不足で死亡する。多くの人々が十分な量の安全で栄養的食料を得る確実な方法を持っていない

（食料不安）。20億人以上が必要なビタミン類やミネラルを摂取できない「隠れた飢餓」状態にあり，毎年500万人以上の子どもが死亡する。

1996年の世界食糧サミットでは，全ての人が十分な食糧に対する権利，飢餓から解放される権利，安全で栄養のある食糧を入手する権利を持つことが確認された。

飢餓の解決には，「食料への権利」への認識の普及，男女平等に基づく環境の確保，格差と貧困の撲滅，食料の自給自足，持続可能な農業，公平な国際的食料分配システムなどが必要である。（500字）

2

(100点)

問1 (60点)

【解答例】

改善されたものには、栄養・食生活の分野で「食塩摂取量の減少」(2.3g 減),「量・質ともに,きちんとした食事をする人の増加」(4.7%増)が,身体活動・運動の分野で「運動習慣者の増加」(男性 2.3%, 女性 1.2%)がある。

一方,悪化したものには、栄養・食生活の分野で「野菜の摂取量の増加」(25g 減),「カルシウムに富む食品の摂取量の増加」「牛乳・乳製品」(6g 減),「豆類」(11g 減),「緑黄色野菜」(15g 減)が,身体活動・運動の分野で「日常生活における歩数の増加」(男性 670 歩減, 女性 836 歩減)がある。

以上のことから,表の項目を見る限り,「健康日本 21」運動の目標到達は厳しい状況である。(276 字)

問2 (40点)

【解答例】

問1にみるように,食生活の上で特に改善を必要とするのは野菜の摂取量の増加,カルシウムを多く含む「牛乳・乳製品」の増加などである。このためには,バランスの良い食事を摂ることが必要である。運動習慣はやや増加したものの,まだ改善が求められることから,運動習慣を身につけることが「日常における歩数」を増やすことにつながると考えられる。これらの実現のためには,食育や食の専門家の役割が重要となる。(193 文字)